

献辞

著者	宮本 勝浩
引用	大阪府立大学経済研究. 2001, 46(2), p.a
URL	http://hdl.handle.net/10466/1578

献 辞

上村雄彦教授は、平成13年3月末日をもって、ご定年により本学を退職されることとなりました。

上村教授は、昭和31年3月に大阪府立三国ヶ丘高校を卒業後、同年4月神戸大学経済学部へ、さらに昭和36年神戸大学大学院経済学研究科に進学されて、昭和41年に神戸大学大学院経済学研究科博士課程で単位を修得された後、同年4月から経済学部講師として本学に赴任されました。経済政策講座の教員として、昭和45年には助教授、昭和61年には教授に昇進され、長年にわたって教育・研究に情熱を注いでこられました。

上村先生は、経済学のみならず社会学、社会思想、社会制度論、環境論などより広い視野から経済学を研究されてこられました。研究の初期には、L. ワルラスの研究で顕著な業績をあげられ、上村教授のワルラスに関する一連の研究は、ワルラス研究の専門家から非常に高い評価を受けました。その後、K. W. カップの研究に手を染められ、カップの社会的費用論の研究では従来のカップ研究の枠を超えた新しい理論を展開されました。さらにカップ研究と平行した形で、21世紀の地球的問題である環境問題にも関心を示され、現在はこの環境問題に新たな研究の展開を試みておられます。上村先生がある問題意識をもたれた時、その問題に打ち込む情熱的研究態度には敬服に値するものがあります。

大学行政の面でも、多大な貢献をされてきました。平成10年から12年にかけて評議員として大学行政に尽くされたのをはじめ、大学院委員会委員、教養委員会委員、補導委員、入学試験運営委員会委員、入学試験制度委員会委員などの主要委員会の委員を歴任され、大学、学部の行政に貢献されてきました。

大阪府立大学経済学会は、上村先生の長年にわたるご業績とご功勞にたいして、心から敬意と感謝の念をこめて、上村先生の今後の一層のご健勝とご活躍をお祈りしつつ、ここに本論文を編集し、上村先生の記念としてこれを捧げる次第です。

平成13年3月

大阪府立大学 経済学部長

宮 本 勝 浩